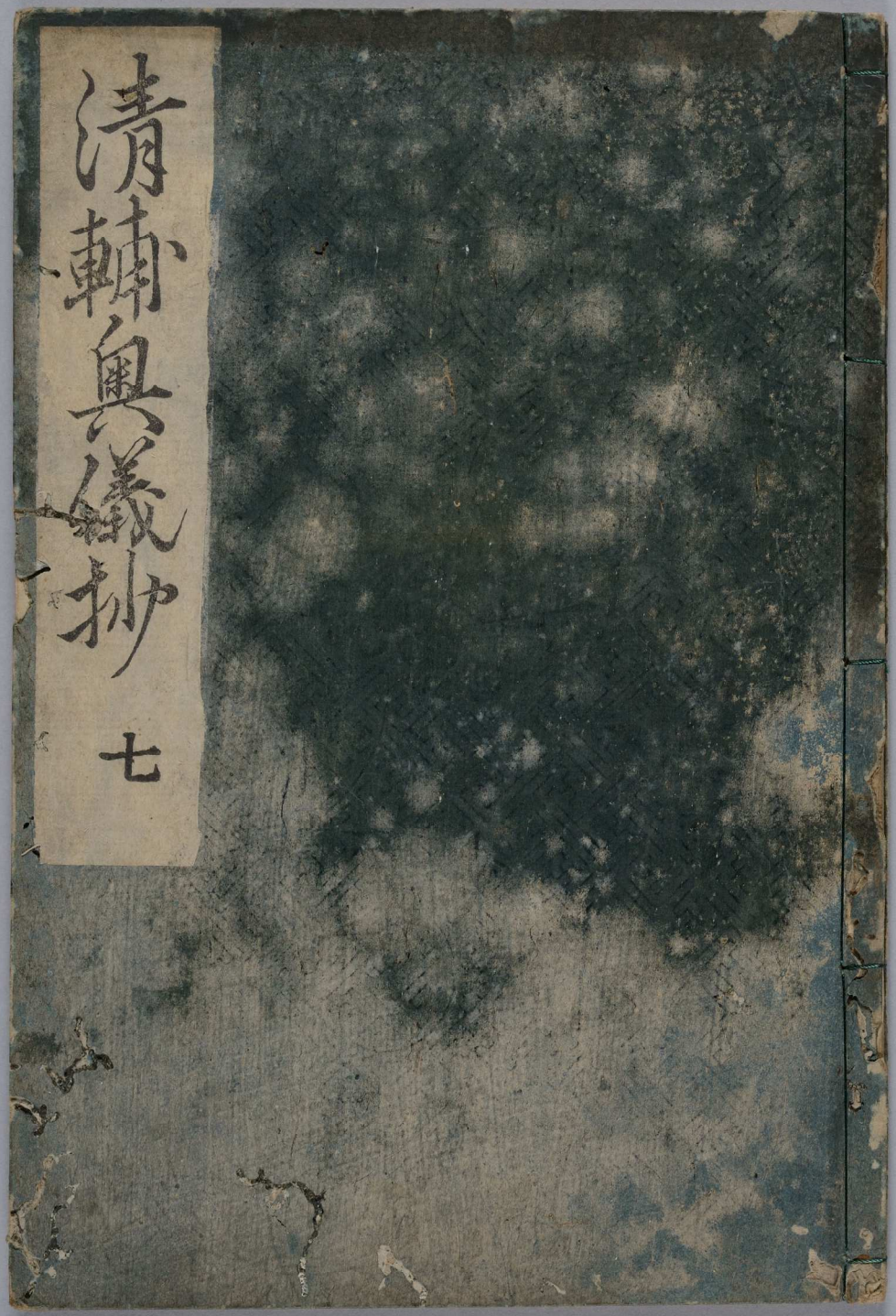

清輔奥儀抄　七

都留文科大学附属図書館所蔵

教傳　　奥義抄下之中

七面　なくかるを面とみるなんるる河

みまるのるるるのるるよ

河の川と三途河をみるるを河とも必る

菅原道まちの地獄絵をんるるよある事云

るを河るるるるるもるのるる

なるるるをめるてかるん

七才五　ちのるるるるるるるるる白川を

るるるるるるるるるるるるるるるるるを

血源の元源中文いの絵るるるるるるるるる

あれまさけるのありけれみをむはくまとめし
てんをおふよみくとひろいハかつる次あやし
の物からけれとかけきた帝のおりて所作と
こきのひけすく出綏へしたりけるこの
後入帝よおそてまつるを迷又されぬとくわし
てゆふるそとこきれぬかしてるとこふ
あひさなきとはさてうきるおよろすきりと
ゆふ三代と云よ物さくまりきるよやうき
あらんとくみくせてえ給ふよめてこき出え
和氏璧つきへ車十五両と題を出へ或物よ云

く叔しるのこきなくと血涙ハ出へさくれ
南中把云周興妻を慕て血涙をうかりしとすと
ぬて鳳臺山の南岳よゆかりけるよ没山
おもくのなわり墓流血涙周流山也
七共　されそくぬきるのやもさひきのきに
されくあれくりこ戀なり
見ハむかしはひときる人よそくきたる男よ
やきる奇く逝水不返後悔不立前とゆへ
事のおるせるせよしへよされてぬと後
悔されよてぬよよせくきるさるくけれ

[illegible]

雜上

七十七　[illegible]

[illegible]

七十八　[illegible]

[illegible]

七十九　[illegible]

あしたの山のまやまわけよ人も行きと
さやかにみえしこともなくしこの名ハ擣衣しれぬ
そのまゝ河のへ音ハめでたきなりてありけれバ
とよ思ふもいはむかくめでたく人をきとそめぬと貴き
ものはるへきのゝこゑにハめでたき水こと
こゝろきけるとてうたよみたるにほきかなしくおもふ
なげよ如くかのなきとも是れハめでたきなりける
みなかのいかなるのまてもふるとくのなかける
と識りあるとて中めうそきよりしりとも志ける
半よりひはなくうくもなへてぬまや是ハ

人のこのしとゑてさらなもなく通はいつのほど

傘

傘は人の志るれ也とて是れ心あるもまた
よ此もとのいはゆるあはれしるもの
物の異名志るしこの物よりいひやしなきわたしこと
志りのなにもとらひつゝものめかしくて志りの乃
なかれんとはしけるハ物のこゝろはやしけれ男
もよ志人もさりしいはあるのなとよあるいもりのさり
とかくハ名のきけるもさりにとせ又そへうなま
きみなるへしとりひ物としりのなそて是れとりひ
なにしへきとなきを心やしるさるのへそこつさと

[illegible]

八十一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

今夜のやわらぎさとられるこころの
やすらいをおもひてまもられ
[illegible]

八十二　[illegible]

[illegible]

[illegible]

八十三　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八十四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜下

八十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八十六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八七　世中をつとめて山邊に住まんとや
　　あれうかれかれ色をあらそふ
　　さしもとて紙をひてをひらるの山色
　　をうつせる事なれば印花と心ふかうかれ
　　ぬるこころとあるこの色をいてよんとも
　　なるはきんとんとんこの花のとなりをたを
　　ちをきこの色とよんとあるこの色
八八　つれなしかりかるるもうハ
　　ふれるものこそうらんん
　　見ハ法文をかるもの天竺よりの弘法の
　　てをるんとの紙をもて一人を海中よりハ一人ハ
　　天よりの或説よりの漁師の頂よりの一人ハ
　　山中のまうれ一人ハ市よりまいるの
　　を弘法のうるうるを一人をあうをを世常の
　　風をうるをこの心紙をあの
八九　あるもあるをあるをかるの山のあれ
　　ふるうるハかるのあるのの
　　世常ハ山中よりの紙をうをあるをと貴之
　　う自筆中とうるこれはとかれハうるを
　　つをうるの山ハあるもあるを常をるの

何ともなき物なれとなん孫姫式
には此哥ハかしこまりて歟のへたるを
とそ何をともおもふ心きのなかさる
ある
卒地にひさやひさにかられにをとふく
海士のすさき心きさんとん
此歌は其のかいさとあるかは紙
きもくも泰のみなさハ地なる半なる
あくのうへなとならとふんとそかりきの
まいかしさらくとふそうとかふとくうる

身といふきんくさうなと思ふ事も何の心を
とふかひるをとゝふ世万葉まい第とゝ後くふる
とふるもし山上憶良卿まも
何よさうひふゝ心かと世復活して
都のてふりまりさにき
万葉まい天離とゝ何くあまさうとかよ
都のてふりハ或物まいおうへ仆時のとゝ
世うゝるつかれむけく訛の人の御花物
とゝいふくとう紀よきともけふもきとし擬ハ
そうきなれりともいへんをいひてきいはゞのうしき

九十一　[illegible]

九十二　[illegible]

九十三　[illegible]

[illegible]

日本紀云安康天皇崩菅原伏見野中陵ニ葬ム　後撰云

[illegible]

九十四　[illegible]

[illegible]

仙人の山のゆきてこうしてあるさまもいと
一番とゑんるゆきよりはちまつへくをのけるの
えをもちるものを秋よりの

九十五　あしひきの山のもくまくもるこゑハ
きのうへゆきてをつるかな

鶴鳴九皐聲聞天と云文に古詩云
うゑをそるひめはしはまこひよ
おのよをあうさつるぬれも
見もきんをそるひめハひめもうえ

その中をよをくまてクのむ声あめよ聞
九十六　春さまハ野へよりしさくみまとはの
花まひさしよりうへをもしめんを
まうさまとい去くまりとのへ方業ないる
されとうれさまもはは集ハ海をとわつ
海をとうせる集へ秋さまハ花をさ
もとよのクのさをとのもクを書へもひ
さまハ秋よ久へををてんるへをもとあを

非諧平

九十七　梅也ゑんををさつまうひとも

人をくとゝひしもとる
鶯ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ひとくとゝやうよさ[illegible]
或物[illegible]

九十八　ゆくもくの田[illegible]
[illegible]の田をあらくよふ
時鳥の[illegible]の田をさとゝ云ハ時鳥
[illegible]と云鳥ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
かくまよくれハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

九十九　ゆくとまくこゝろをそ[illegible]
[illegible]
見ハ古日の年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しくも志うくはへるところも
とよめり又見るくとも何ゆふつき見えどもよめり
又きくと心りんとてもきくくきともよめりさこそれ
まくともきりにも海さもむもと紀さはけりく
とい心けり給ころかとかくさまはけてとりみえ
たふと志る人まてゆむきもよむ心ん人あまたに
といもさころもとりふんやもをまわりくん心ると
あくおも我こらくまるくん心をましく
ん心とよめるまやとももこさ西きと何もあり月の紀
百　是引の山田代そ加川そのまさん

見きゆかりてふうきけりしきこを
そ加川と山田ま地ちろりま去ろろ人々えそかり
さきえおやしの人すぬまのと心きむとて
そほつまよまくへころえそきさんまれま何き西
かしとりふうんう記人と地ちゅうとよめるえ
あやしき人まけうこせうきてよめる事まそ
百　人まはりんつき為す紀まいおひとそて
也みりしまひまこ後風けとり
津きのは紀ま心とよめる八便ろすもとふん無骨
こともと我もつきなしと云八便宜なきさん心智

万葉集にかくそなんとうたひとをきてとゝ[illegible]
とゝひて世さるゝくゝ[illegible]ひとゝ[illegible]
のさゝくとゝいもゝとゝゝをけ[illegible]ひよ
そへてんやとゝよゝなの

五三　かくゆん人ゝ[illegible]
とゝのゝくゝをもれもひぬ
世ゝひゝよゝるゝゆへにゝへゝ[illegible]
かゝ文をゝあゝをハをけゝめゝゝ[illegible]
ゝかひつをてひゝをまてゝおゝゝや物をゝ
ゝあゝをけまゝゝひゝへゝをゝをけゝひゝ
やゝゝ物ゝゝをゝゝとめゝゝゝへゝする世
ゝれひゝをゝゝむハ世ん人ゝ乃数をあゝ何
とのゝゝゝゝをゝのゝとおひぬをハゝをゝを
人ゝゝみゝゝゝゝゝをゝれゝゝゝ時ゝをひゝ
ゝをゝゝあゝゝゝをゝをゝゝゝゝやゝゝゝ
むへゝをゝゝゝゝをかひゝへゝのあゝゝゝゝ
ゝゝやゝゝとゝあゝゝゝを世義ゝゝゝゝを世ゝを

五三　ゝ後ゝ[illegible]ゝのゝゝゝゝゝゝゝ
とゝをんとゝふゝれゝゝゝゝゝ
世ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人ゝゝ事部五の

記に吉野山ハ五臺山のかたはしの雲に乗て
飛きたるよしいへりされバ古今集ニも吉
野の山とハいひつたへるをや世にも今案とハさ
こゆるといへりさるよしをいへんとそれハ
うつりしの山といふにいひてさらに名り
ありうしへいかなん事はいかんとするに○
いふへきことあれとも又此国のもよしの山に
かけるん緑ハみちらけれんもするもてハ緑
けれハかりんや緑うつまとりてみの雲より
雅山のさくにあとしさ所に山のもとりとも

王をもとくをしとよめるとそこん雲つりうてに
よしの山をとけるに俳諧のうんハあるをまとそ
こんらしうきもりり緑らしのよし野の山とも
くすうんさせらんてもる紀をまてそもゝつるめ
百首　難波かかるなるれとしもはなくる也
今はこころもとをするしきをん
此集雑部に　世中ニかりゆくものハはなのあ
のすくへハはしと秋もしれりと心へる事をか
まてよめるゝ織ニ檜とはくらかいあししく
さくへさするにゆるせくよるもれさくひらすき

[illegible]

百

[illegible]

[illegible]

百一 梅むさ紀くのちれみる色りや

[illegible]

[illegible]

第九

百八 [illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝりつくしの山のうへとゝ神樂まつり申奠碑
暮てうらをゆつくりとゝ山のうへとゝ
まれりくあれ一八大和國ゝ山ゝ曽丹河云
まゝ家りくゆあるのひとうまゝうてん
花のゆまりとゝうゆつくゝ
見とゝ山也又あれ一ハ山のとゝ
ゆれ一あゝひりとゝ檜木の原ゝ
とゝうゆつくてとゝうゝ山ゝ神
ゆりとれハゆゝのゝ
まふんゝ　同云ゝ山ゝ神ゆりとゝ

あるゝや　蒼古年云
とゝゆのゝ神ゆゝ山のうへ記
ゝゝさゝ里ゝひゝゝさ
あゝ山あれ一同ゝゝとゝゝ
うゝ神ゆりゝゝゝゝ神ゆゝ
ゆゝゝゝ神ゝゝゝ物ゝ
ゝゝゝゝ八方菜ゝ未通女ゝ
ゝゝ如ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ垣ハ神のゝゝ垣ハ神ハ
ゝゝゝゝゝゝ

よむへし　同云高野姫の天皇なりける時に幸し
あふ時左大臣卿の詠る哥云
かりはゐとさえしとこそ。いはくきの
みかの○はらむとく○のはくきこえ
はるのまくらかきさ神のいましもわか
へかさもとも聞しを　答云ハ紀ハ垣乃中ま
りくせりくしたま垣るまえ神のいまするも
ときえ河内乃いそとかめかゝ名のまくりハ
くきのみか○のとよまりえ文久しきめま
ひくわひきそのへくるく

亘儿　まかねふくきひのなかやまおひにせる
ほそたに川のおとのさやけさ
まかね八鐵(くろがね)なり此山にてはまかねをとりてふき
けるとなれハかくかまかねといふ吉備の中山なりけれハ
ほそ河のめくれるハ帯(おび)にせるといひよめるなり
備中(びっちゅうのくに)國なり

亘十　こちのくまかってハ湊とまかの浪乃
浦こく舟の借まてうかりしも

亘一　ともちさ紀のかハの小嶋乃人すくも
都のつとにかきといりましを

ころハ小松とのちとと云ふものゝえこれかあそびき
落されハ人まてかまし八数人まても見ゝのゝ
あるかしとする津をハ万葉集に八雲とひ絵て
よみつくめる物と云へ今すらもいてつゝ
すみへ玉造とも申すなれ土佐（とさ）ともて
さて人よみとるとも此そひの浦とすゝ云之
夏生 すみた川の邊もまろつるかすれ
いかすいわくともの月りる
此年嘉應（か）通（つう）まて志りもりをと申へ今も好まを
川 まこひらくもちくての方か[?]おれしらを
かりくもくとも迷ても淨土舟といひかう[?]
すいのかりめの迷いふもつもの者をハよめの歳
物語ハぞり
南都國乃住人の中しハ彼河をとへこくそやき
津野しまてよろしまかれそのくまうの板のやうな
とくひちさりとく流連をれその方のかくれる舟乃
文をくろかやうまよう起てまてあえ面うたとし
せんも撰撰す
まくゝ河かうさまて河邊かせかうの舟出
心つくゝもうへ日あまうら[illegible]

[illegible]

百三　[illegible]

まつの雪ふるさとのうん

わすれんと思ふのみちをたどりてとんぬるこそ

とまるなれ万葉よりの異説とかの書之ものも

掛けるものもむすびたちかけまも

ひろく草まいのすゑ

とまるの末の松山波こゆるとよむ

男もよもの松山波さてはこゆ波たち

河をもよろへをも[illegible]ろうれをもうまをよ

けるものへのうをもをて波こゆるをん波山

よ海をよ波のこゆるをひをもあるをん

海のもろのをもをるを波のは松山の

うへのこゆるやうをんをうをひをうをき

ずをきは波のあれるをの山こをん河をん

とい歌

百四　[illegible]

めをしめるとれ物をれるを

めをとん海の山をのををて物をのをを

許まて有かの万葉よみにこそあれとあると
文書ニの旨もなきくるにや
百五　かひかねをさやにも見しかけれなく
　　よこほりふせるさやの中山
ききす普通(ふつう)にはよこほりふせるとは詠るその
遠さやの中山ハ日坂郡(ごほり)にわたりてあまたにハよこほり
こゑるといへるをよこほりふせるといふ紀さう
甲斐ハひたちよこほりをといふもちすことゝせ
とも土佐(とさ)の日記にはひんかしの山のよこ
ほりつるをとんもやさしめでやといふすきならす
説もわたるよし都やたかき山郡(ごほり)なるをれりとも
さてしれもひくきまにまもほとし経(へ)よ記にも
よこほりふせるとはかる地とおもひ浅戒物云
まちうとはみせるといふ詞えもかう九國の風俗(ふうぞく)
すに文書れてくといふ綿すくと云えうひ出
あの風俗と紹るさるやほんこの文書にか
よひこ建といふをもひうをみないれるかいひとつを
さやうよ見るべきにさすくきよりみせるよしれ
といひて今すうつよくこまでんやすく山郡ないの
うこあそうと

百十六 かひなきをおもしやまふしめくらせを
人まちかねやるを待て御らん
讀人不知
縫字
一 うつすまきひとつ連て御らん鳥の
かくすまゝハ柚の木津まとちく人の物のわらひ
ころくみえ連ことゝまのかり
同字云
二 こゝ桜乃やまちれハ白紙やまなす
貫之字云
三 やちくさのゝ花ときまる
万葉にハ八千種とかくやちくさとよめり
忠岑字云
四 あきのゝにかれたるちくさ
淮南王ハ薬を服して仙になりてのほりしに之
其仙薬乃相まつさらをくらひし鶏犬も
の仙になりてくもの中にいりしと云へる
かしこきはしまなし也
五 同字云
秋ハ秋乃かせにこゑあはれをさそふ
秋乃ゝるさとにハ酒と云んにはおもしろれハ古歌

門府まうてゝおもいかゝるあるはさゝとんもろ
はとゝゝふゝもゝ詠の字をよむなり

同寺云

六　[illegible]

[illegible]

同寺云

七　[illegible]

文集云中有三神山之上多生不死藥又云
遼藥古今但図名云云

詞　物名部よ廉秀寺の詞よ云

八　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

憲部云

九　[illegible]

[illegible]

[illegible]

秦蔓方はやけ[illegible]

[illegible]

小町寺の伝云

十一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

人名

十二　籠　女の名と或人云[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三　序云　夜通姫

日本記云維渟毛二流皇子の女なり元恭天皇

八年春二月藤原よりつぎてひとりのきさきの姫のもとをとゝのふ中ノ姫衣通姫みをを惠をてまつりてひとりのみをものみをとりをなをとゝのふ事

ちををこうをんをさをひをせをさをふ乃
をもをのをのををひをるをてをををを

住吉の社ハ住吉社ハ南社ハこの衣通姫
を祭る所の神なり世をを津守國基ハ將軍
藉中ノ所ノ

十三　真名序云　天神孫

彦火々出見尊也日本記云ひこほゝてみ
とをとりのもとめ豊玉姫をめとりのひて
こうもとり給ふ時豊玉姫のよりくるを
うらもむ時よるのうみをみると思ふ事
あるをもてひうらをひるふ姫さるをり
こうをのふ時ハ彩ハ鱗ハちをのをまをを
釣ハちをんをさをまをうハ海ををわひをひ
てををををををををををををををををを
ををををををををををををををををを
ひをく草ををちをみををををて海の中の

されて海のうちとちかくさらぬ時にみると
よくしらる事
沖津とは沖をつくしまはやうてゐる
所もいはずまきしよの浦くなり
舟まちハ鷗によせ知らぬとおもふよある
万葉云
知らぬとは知もとはふみえてれえ
中つ風さわかしき浪もちうけらせ
さまえりも漬くとい京つ鴻によあらまそ
秋のしとい同集にい率宿と云給て

よめり
十四 海童女
豊玉姫なり 同記云とよたま姫のみこ
まうしきを産まてわりかとてよみをり
て海しみりんとおへとよろしと知りて薄
玉依姫を海りく中りすりせあつ時に玉姫の
みを玉より姫にませらるよくみつる雑事
わらなのひとりハ河りとんちからと
乳つまそりしあふとくわりけり
わらまかとい子めえうとえ事にまかえ

とは第卅の皇をそのうまとみる
同記云此贈答之首八是四拳歌又云ものみ
ひめ〳〵姫〳〵を玉依姫を為妃云ものハ
神武天皇ハ父彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊
也此尊うゝたまふ御母ハ玉依姫
とのたまふやとゝ
故此卷者和歌肝心是也非灌頂之人者
輒不可聞灌頂撰器量及年齢可授之
玉津嶋姫明神御守護卷也可慎〳〵